

最悪の形態の児童労働：動学モデルと政策的含意

菅原 晃樹^{* †}

Graduate School of Economics, Osaka university, 1-7 Machikaneyama, Toyonaka 560-0043, Japan

平成 20 年 4 月 23 日

概要

この論文では児童労働の質を考慮に入れた 2 期間 OLG モデルを構築する。このモデルでは、人的資本の水準の差によって起こる家計の所得水準の高さの違いにより、親が子に従事させる児童労働の質が異なることを示す。経済の人的資本水準が低いと「最悪の形態の児童労働」が発生してしまう。また、人的資本による動学分析を行い児童労働の水準が高止まり、質も悪化したまま留まってしまう貧困の罠から抜け出せない可能性を示す。最後にどのような政策の可能性があるかを議論する。

JEL classification: J13; O11

Keywords: worst forms of child labour; Human capital

^{*}Tel.: +81-6-6850-6111.

^{E-mail address:} dg025sk@mail2.econ.osaka-u.ac.jp

[†]本稿を作成する上で、二神孝一教授（大阪大学）から多くのコメントを頂いた。また、小野善康教授（大阪大学）から大変貴重なコメントを頂いた。ここに記して深く感謝したい。もちろん本稿に含まれる全ての誤りに対する責任は筆者に帰するものである。